

令和6年第2回 湖南省臨時教育委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年8月30日(金) 午前10時から同11時5分まで

2. 開催場所 湖南省役所西庁舎 2階 教育委員会室

3. 会議に出席した委員

松 浦 加代子
伊 藤 真 昭
岩 城 見 一
古 川 美智子
平 松 彩

4. 会議に欠席した委員 なし

5. 会議に出席した事務局職員 7人

6. 会議を傍聴した人 1名

7. 会議案件

日程第1 議題第31号

令和7年度使用教科用図書の採択について

日程第2 協議事項

(1) その他

事務局

第2回湖南省臨時教育委員会のほうを開催いたします。
市民憲章の唱和につきましては、先ほどの定例教育委員会のほうで行いましたので、省略させていただきたいと思います。
それでは、議事に進みます。教育長、よろしくお願いします。

教育長

それでは、本日は令和7年度使用教科用図書の採択についてということで、議事を進めさせていただきたいと思います。
ここまでのところ、皆様にも大変詳しく各教科用図書を見ていただきまして、いろいろな意見を交わし合いながら今日の日を迎えることができたなと思っています。
それでは、学校教育課長から各教科の説明をお願いします。

議案第 31 号、令和 7 年度使用湖南省立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについてを説明申し上げます。

公立の各小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、採択地区協議会が設置され、この協議会で行われた教科用図書選定の結果に基づき、各市町教育委員会で年度ごとに採択することになっております。

資料 14 ページから 15 ページをご覧ください。本市が所属する教科用図書第二採択地区協議会の規程を載せております。

この教科用図書第二採択地区協議会は、草津、栗東、守山、野洲、湖南、甲賀の 6 市で構成されており、それぞれの教育長、教育委員代表、保護者代表を委員とする協議会でございます。この協議会において、第二採択地区内の各市立小中学校で使用する教科用図書が選定されます。

次に、本日議決を求めること並びに第二採択地区での教科用図書選定までの経緯と結果について説明いたします。

17 ページが今年度の経緯となっております。

本年度は、中学校用教科書全教科の採択の年であり、さらに、小中学校特別支援学級一般図書の採択替えを行います。現在までに協議会を 3 回、代表協議会を 1 回、幹事会を 3 回開催しました。併せて、5 月 28 日から 7 月 10 日にかけて、各市より選出した委員による調査委員会を開催し、厳正かつ精密な調査を行いました。7 月 31 日と 8 月 1 日の協議会では、委員長より調査報告を受け選定し、8 月 1 日には第二採択地区としての議決を行いました。

小学校は、2 ページから 3 ページが通常学級で使用するものの一覧と理由となっております。4 ページから 7 ページにつきましては、特別支援学級で使用する一覧です。特別支援学級で使用するものにつきましては、学校教育法附則第 9 条の規定により、文部科学省著作本と検定本以外にも、絵本などの一般図書からも選定することができます。

知的障害学級用については、保健において、テーブルに置いてございます『ドキドキワクワク性教育②大切なからだ・こころ』が新たに選定されました。

社会科では、同じく前に絵本が置いてありますが、『なりたい！ わくわく！ おしごとずかん』が調査委員会から推薦されました。ところが、シェフが女の子、スポーツ選手が男の子というように、職業におけるジェンダーへの配慮に欠けているということから、選定がこの本については見送られております。

続きまして、中学校では、8 ページから 9 ページが通常学級で使用するものの一覧とその理由となっています。中学校の特別支援学級の一覧は、

10 ページから 13 ページに掲載してございます。

社会科において『小学生おもしろ学習シリーズ 完全版日本の歴史人物大事典』が選定されました。この図書については、日本の歴史の中で重要な人物 272 人を紹介しており、日本の歴史や偉人のことが楽しくわかり、各時代の人の想いや知恵が見えてくる構成となっています。歴史という抽象的な内容の学習をカラー漫画やイラストで具体的にわかりやすく表現しているため、特別支援学級の生徒が学ぶのに効果的であるという理由です。

理科において『小学館の図鑑NEO 野菜と果物』が新たに選定されました。この図書は、日本で食べられている主な野菜と果物など約 700 種類が最新の情報に基づいて紹介され、私たちが健康で生きていくためになくはない野菜や果物の特徴や栽培方法、栄養、料理方法などが詳しく解説されており、何度も繰り返し読みたくなるような内容となっています。

なお、弱視学級につきましては、小中学校とも、通常学級で採択された教科用図書の拡大版、そして文部科学省著作本であります点字版の教科用図書を選定しております。

続いて、協議会において、調査委員長より報告されました調査結果の概要について説明をします。

まず、資料 9 ページをご覧ください。こちら、中学校全 16 種目ございますので、それぞれまとめて教科書選定理由を説明申し上げます。

まず、国語です。選定の観点につきましては資料 19 ページをご覧ください。国語の選定図書は光村図書です。

光村図書の特徴としましては、各学年の巻末に「語彙ブック」が置かれ、描写、言動、思考に関する語句が多数紹介されています。また、「語彙を豊かに」や「言の葉ポケット」「言葉を味わう」などでも、主体的に語彙を増やし、語感を磨く方法が系統的に学べるようになっています。写真やイラストには多様性や多文化共生を意識した様々な背景を持つ生徒が登場するように配置されています。

続いて、書写です。観点は 27 ページをご覧ください。選定図書は教育出版です。

話し合い活動を通した書写の学び方ができるよう工夫がされています。筆の入れ方や穂先の向き、力の入れ方等がわかりやすく写真で示されています。合計 97 点のQRコードのコンテンツがあり、それによって動画・資料・リンクやワークシートが示されて、特に筆使いに関する動画が充実していることから、学習者が直接筆の運び方が見えるというところがよさとして報告されていきました。

続いて、地理です。資料では 35 ページにその観点が示されております。

す。選定図書は帝国書院です。

用語解説や側注、コラムとして「地理+」が充実し、單元ごとに学習目標に対応した振り返りが設定されています。学習内容の深い定着が図れる構成となっています。SDGsの視点から現代的な諸課題について取り上げたコラムが数多く掲載されています。「アクティブ地理」には、SDGsの視点から現代的な諸課題について考えさせる活動が設定されています。

続いて、歴史です。選定図書は日本文教出版です。

政治・産業・社会・文化についての内容を時代ごとにバランスよく配置、歴史の流れと各時代の特色が理解しやすくなっています。「歴史的な見方・考え方」では学習の仕方、特に思考・判断・表現の面で非常によくまとめられています。写真・図・グラフなどのバランスがよいです。大きさも均一的ではなく、軽重がとれています。側注の文字も読みやすく、写真も鮮明で見やすいです。

続いて、公民です。選定図書は帝国書院です。

「確認しよう」では、本文や図版から学習上大切な事項を確認させる問いを設け、知識の確実な定着を促す工夫がなされています。「アクティブ公民」や「未来に向けて」は、課題解決に向けて多面的・多角的に考えられるテーマが多く取り上げられています。節の始めにQRコードが提示され、直接資料にアクセスすることができます。また、生徒がQRコードでワークシートに直接書き込むことができます。

地図です。選定図書は帝国書院です。資料戻りまして 45 ページからになります。

地図を基に確認したり深めたりする問いが数多くあり、基礎的な内容から発展的な内容まで様々なレベルで問題が構成されていて、生徒が主体的に学習を進められるように工夫されています。地図は、はっきりとした色合いで文字とのバランスもよく、とても見やすくなっています。また、資料ページは、地図のほかに写真やイラスト、主題図が豊富で、視点を変えて学習できるように工夫されています。

続いて、数学です。観点は 76 ページとなっております。選定図書は学校図書です。

「Question」には数学的活動で学びを深められる問いと、働かせたい見方・考え方のヒントが示されていて、見通しを持ち筋道を立てて論理的に考察できます。日常生活への利用では、問題発見から段階的に解決できる構成です。「説明する力をつけよう」の問題では、生徒同士の話し合いを通して他者の考えに触れ、協働的な学習を行うことができ、表現力の向上につながります。また、問題の配置や量も適切でした。

理科です。観点 86 ページです。選定図書は新興出版社啓林館です。

各章の中に、単元で取り扱う事象の本質に迫る問題提起になる投げかけがわかりやすく提示されています。実験目的、方法、結果、考察までの流れが見開きのフローチャートで記載されていて見やすいです。「探Q実験」において、実験結果のまとめ方や分析するために参考となる情報が見やすくまとめられています。「探Q実習」に、結果と考察から発表スライドを作成し、意見交流を促す記載があります。

続いて、音楽です。選定図書は教育芸術社です。資料は 98 ページです。

音楽を形づくっている要素との関連が教材ごとに明記されており、音楽に関する歴史やその背景など、知識の習得と学習内容の理解につながる記述が適切に配置されています。伝統的な歌唱については、系統的な配置がされています。伝統芸能や地域の芸能なども加わり、現代の生活と古典芸能が共存していることが理解できます。デジタルコンテンツは、音楽・動画・ワークシートと豊富であり、創作ツールも充実しています。

器楽です。選定図書は教育芸術社です。

楽器の名称、基礎的奏法の解説が適切に配置され、知識の習得に効果的な内容となっています。「楽器を知ろう」のコーナーでは、楽器の歴史が簡潔に記載され、楽器への興味・関心を高めるものとなっています。また、どの楽器においても記述や写真等で奏法がわかりやすく示され、技能の習得に有効です。デジタルコンテンツが豊富に配置されており、生徒の自主的・発展的な学習に役立つ工夫がされています。

続いて、美術です。108 ページに観点を示しております。選定図書は光村図書出版です。

写真や図版の内容が充実しておりまして、鑑賞から表現へのつなぎの役目をしています。別冊資料により、3年間繰り返し見ることができ、それぞれに必要な時、補助として使えます。写真や映像表現など、取扱い内容が充実しております。鑑賞資料が豊富で、比較鑑賞がしやすい構成や思考ツールの提示など、工夫箇所が見られます。デジタルコンテンツに、ほかで見ることができない貴重な資料が収録されています。

保健体育です。選定図書は大修館書店です。観点は 114 ページからに示してあります。

実写が多く、イメージを持たせながら学ぶことができる工夫がなされています。子どもたちが身近にスポーツを捉えやすく感じるよう、技能の例を多用しており、深い学びにつながる内容となっております。運動、食事、休養・睡眠をバランスよくとることが健康の保持増進につながるなど、生活の一つ一つの行動が体と心の健康と結びついていることがわかる内容です。

技術です。選定図書は東京書籍です。120 ページからに観点が示してご

ざいます。

学習の導入となる「レッツスタート」という活動が設けられており、学習内容への関心を高め、学習課題へとつなぎ、主体的に学習に取り組むことができます。また、「考えてみよう、話し合ってみよう、調べてみよう、やってみよう」と呼びかける言葉で、主体的・対話的に活動に取り組める工夫がされています。デジタル教材は、説明と字幕の両方あることからわかりやすいです。

家庭です。選定図書は開隆堂出版です。126 ページから観点が示してあります。

具体的な生活場面から自分自身の課題を発見し、生徒が主体的に課題解決を進められるような実践やイメージが提示されています。ペアワークを取り組みやすい発問もあります。多様性を意識した資料も豊富に掲載されています。人権学習や道德との関連を持たせた内容が設定されています。ユニバーサルデザインの視点を意識することで、文字量や色合いも工夫がなされています。

外国語です。選定図書は東京書籍です。133 ページからをご覧ください。

各 Unit は7から8 ページで構成されています。1 年生は Unit 4 までは全てダイアログ形式（対話形式）であり、会話の中で既習事項を確認できます。各 Unit の扉に目標が明示されており、「Unit Activity」で題材に関連した学習活動が設定されています。デジタル教科書のどの箇所をクリックしても音声の流れ操作性がよいです。QRコードからのコンテンツの内容が豊富です。

最後です。道德です。選定図書は日本文教出版です。

コラム「明日へのメッセージ」では、様々な人物からのメッセージが掲載され、その他「視野を広げて」「学びを深めよう」で、学んだ道德的価値についてさらに考えを深められるような工夫がされています。別冊道德ノートでは、記録を一冊にまとめられるため、生徒自身も学びの跡を実感しやすいです。また、毎時間の「自分への振り返り」の欄や学期末の振り返りのページでは、自身の成長や変化を記入することができます。

長くなりましたが、以上、教科用図書第二採択地区協議会における全ての種目の調査結果について説明を申し上げました。ご審議をよろしくお願いします。

教育長

2 日間の協議会での報告をいただきました。

まず最初に、小学校の特別支援学級の社会科の部分で、この一般図書はふさわしくないのではないかということで、性の役割があまりにも固定的な役割しか書いていないのではないかという意見が出ました。

例えば、大工は見るからに男性ばかりで、これは 2016 年が初版かと思っているのですが、8 年経てその辺りについては理解というのも変わってきていますし、例えば看護師ですと女性ばかりが載っている、ということでこちらはふさわしくないのではないかとということで、今、この一覧には載っていません。

これはよろしいでしょうか。

それでは、進めていきます。中学校の特別支援学級については、このような選定理由等が書いてございます。

中学校の特別支援学級については、特に意見は出ていなかったです。

それでは、1 種目ずつ湖南省でこう考えたということと、少し違っている種目もありますので、その辺り、私たちが納得できるような調査というのを私としては受けましたので、そういったことも報告させていただきたいなと思います。

まず、国語ですが、こちらについては令和 7 年度も光村図書出版ということで、湖南省でも光村図書出版がよいのではないかとということでした。理由については、例えば原文の横に訳が書いてある、古典の読ませ方が大変丁寧になっている、新しいメディアがどれだけ影響を与えているのかというところで少し不十分なところもありますが、ここは光村図書出版であろうという意見でかなり一致していたというふうに記憶をしております。

一致していたところについては進ませさせていただきたいと思います。

少しこれはどうかなというところについては、学校教育課長のほうから聞きたいと思います。

書写につきましては、変わりなく教育出版ということで、湖南省でも教育出版がよいのではないかとということが出ておりました。これについても書き方に特に集中できるということが、ほかの会社ともあまり大きな差はないが、比較すれば教育出版かなという意見が出ておりました。

次に地理です。ここにつきましては、現在、帝国書院で、次の令和 7 年度からも帝国書院ではないかとということで、湖南省としては帝国書院もいけれども、教育出版もよいのではないかとというような意見を伺っておりました。この辺りについては、委員にも言っていたいたのですが、帝国書院、まとめの振り返りが非常によい、といった意見が出ていたかなと思っております。

ですので、湖南省も帝国書院も納得かなと思っています。

公民につきましては、今、日本文教出版なのですが、湖南省もそのまま日本文教出版がよいのではないかとという意見でまとまっておりました。

ただ、協議会では帝国書院ということが言われました。学校教育課長、公民について協議会で出ていたことを補足していただけますでしょうか。

学校教育課長	教科書がこれまでと変わるということで、調査委員長からも丁寧な説明をいただいたかと思います。
	日本文教出版と帝国書院の本当に甲乙つけがたいという意見があった中で、内容の量の多さということが意見として出ておりました。実際に授業をされる先生の立場で見た時に、盛り込み過ぎてしまうことで、それぞれの学習の深みが出しにくいということが出ていました。そういった点で帝国書院のほうがコンパクトではありながら、これならこなせないということはなく、適度な量で学習ができるのではないかという意見が出ておりました。
教育長	ここについては、かなり時間を割いて協議をさせていただきました。
委員	調査委員長のご説明では、帝国書院も現在使っている日本文教出版もどちらも甲乙つけがたいとのことでした。皆さんのお手元にある資料でも、帝国書院は全てAで、日本文教出版は1つだけBなのですが、そのBの中身を見ても悪い評価ではありません。湖南省として、日本文教出版がいいのではないかということの理由の1つとして、今、変える必要がないということと歴史とのつながり、同じ教科書を使っていることでの関連性もあるのではないですかとお伝えしました。 調査委員長の発言の中でも、「帝国書院でないと絶対駄目ということでもないです」ということも言われたので、「では、文教出版では駄目なのですか」ということも言ったのですが、最後は現場の先生がこちらがいいというふうにおっしゃっており、その1つとしては、その時の調査委員長はレベルが高いと言われたのですが、いろいろと盛り込み過ぎて全部を授業の中に取り上げられず、そういう時に「先生、飛ばしたんやな」というようなことも思う生徒もいるかもしれませんので、消化しきれ分量の帝国書院でいきたいですというご説明で、現場の先生がそうしたいと言われていて、甲乙つけがたいということであるならば、では、帝国書院でもいいのではないのでしょうかということで納得、理解して帰ってきました。
委員	変ですね。先生の都合で決めてはいけないと思います。 もう一つは、今、委員がおっしゃったように、ここで議論していた時にも、歴史で日本文教出版を選んだのは、その編集している人たちが役割を少し変えて、歴史を専門に編集する方達が歴史を責任を持って行い、そして公民を編集する方は公民を責任をもって行うという形で、役割を変えながら両方が連携を取れた形で編集されているので、教科書として一貫しているということがありました。日本文教出版は細か過ぎて教えにくいですが、帝国書院は教えるのに楽だというのは、議論として簡単な感じがしな

くはないと思います。

もう一つ、これはお聞きしたいのですが、いつも話題にしている歴史や道徳、こういう教科書を選定する場合には、どういう人が中心になってそれを編集したかということは非常に重要だと思います。前に私が会議に出た時に言ったこともあります、その時に調査委員の方は、「初めからそういう編集者を知っていたら公平に判断できない」という返事が来ました。私はそれは違うと思いましたし、入学試験などの時にも誰が受けたかというのを初めから知っていますが、不正をしてはいけないというのは平等ですので当然です。

しかしながら、教科書というのはある責任を持った人が編集していますので、この人がどういう考え方を持って、これまでどういうことを研究してきて公にしているかということはしっかりと調べないと、この教科書の性質もわからないと思います。

それはなかなか通じないのですが、今回もその辺に関してなにか説明がありましたでしょうか。

委員

ありませんでした。

委員

やはりないですね。今後これは非常に問題になってくると思います。

教育長

編集者のことについては、湖南省ではずっと話題にはしておりますが、調査委員会の趣旨としては、この与えられた本の中で調査をするということなので、編集者についてまでの調査はしていないと、変わらないということでありました。

そして、やはり地理は地理、歴史は歴史という、この考えがそれでいいのかということも提案はさせていただきました。

しかし、その調査の仕方としては、そこは独立しているものですので、こちらとこちらを関連づけて考えるということはしないということでありました。

委員

何か腑に落ちない話が多いですね。

委員

最後の選定の方法が先生ファーストになってはいけないと私も思います。子どもを第一に考えて、それだけたくさんのことを学べるほうが結論としてはいいと思います。

委員

先生ができないのでしたら、教科書を子どもに読ませたらいいと思います。

教育長	いろいろな知識を得ようと思いますと、本当に多く得ることはできません。それを主体的にどういう知識を自分の知識にしていくのかということが、今の子どもたちに求められる主体的な学びというところだとは思いますが。
委員	これは第二採択地区で決まってしまうと、湖南省もそれを使わざるを得ないですね。
教育長	そうですね。これは時々、湖南省はそういったことがございます。
委員	何か癪に障りますね。
教育長	やはり丁寧に見れば見るほど、歴史と公民と地理というところで関連づけて考える必要はあるかなと思いますが、そういったところもまた引き続き意見として出していきたいなと思います。 次に、進ませていただきます。 次は歴史です。協議会のほうでも日本文教出版、変わらずということがありました。湖南省については、日本文教出版か教育出版かというところで、ここは甲乙つけがたいというような意見を持っておりました。 このことについては委員、どうでしょうか。
委員	調査研究委員会の中でもこの日本文教出版、教育出版はあまり評価が高くありませんでした。湖南省としても日本文教出版という声も上がっていましたので、「そこはいいですね」ということで委員会では発言をしておきました。
教育長	次に地図です。地図は変わらず帝国書院です。これについては湖南省も帝国書院ということで、納得ということでよろしいでしょうか。 次に数学です。数学につきましては、今は啓林館を使っております。湖南省では、引き続き啓林館か大日本図書、協議会としては学校図書ということが出ておりました。 ここについて学校教育課長、少し補足をお願いします。
学校教育課長	協議会で出ていた調査委員長からの言葉の中で、これまで使用してきた啓林館については、これまで使ってきた先生たちの中で課題だなと感じてきたこととして、導入問題、単元の一番初めに出てくる問題の難易度が少し高いということです。導入の段階で難しいとなってしまうと、苦手意識

の高い生徒たちが興味関心を引くところまではいかず苦戦していた、ということ考えた時に、学校図書のほうは、特に導入の問題について段階的に理解できるような手だてが打たれているという印象でございました。

併せて、学校図書のほうは、特に思考力・判断力・表現力のところで、スモールステップで習得できるような内容が充実しているということを書いていただきました。

教育長

これについては、生徒たちのいわゆる学習へのつかみというのか、そういうことをお話しされまして、私は納得できたのですが、委員はどうでしょう。

委員

先ほどの話と同じように、子どもたちがその教科書を読んで内容を理解できるようなものだったので、私はそちらがいいと思います。

教育長

最初につまずいてしまうと「もうわからない」となってしまいますので、これは現場の先生方の生の声というのは生かされることだなと思っております。

次に理科です。理科については変わりなく啓林館で、湖南省においても啓林館は写真があり論理的思考が育まれやすく、そして二次元コードの適度な配置があったりするといったことで、啓林館がいいのではないかという意見が出ておりました。

次に、音楽です。音楽は一般と器楽があるのですが、これはどちらも変わりなく教育芸術社です。湖南省としましても教育芸術社がよいのではないかということでありました。

次に、美術ですが、今、日本文教出版を使っております。湖南省としましても、今のアートがどうなっているのか知ることができる、美術の意味として、よくわかるような取扱いをしているのではないか、バランスが取れているといったことでこの日本文教出版を考えたのですが、結果としては光村図書ということでありました。

このことについても学校教育課長、補足をお願いします。

学校教育課長

光村図書のよさとして、別冊資料で技法がわかりやすくまとめられているといった点、それからマッピング、レーダーチャートなど思考ツールで豊富に提示されているので、自己との対話から友達との対話につなげられ、お互いの考えを比較して気づかせる場面設定ができそうだということ、また鑑賞の学習で、同じ題材の中で異なった素材、形を掲載してあるので、比較的鑑賞がしやすい構成になっているというメリット、よさがあるという報告がありました。

日本文教出版については、自己との対話は深められそうではあるが、他者との言語活動という点で場面設定がやや少ないのが残念だと、もう少し対話場面の設定があるといいなということが報告されておりました。

教育長

委員なにかご意見ありますでしょうか。

委員

一番よくないというやつが通っていますね。

教育長

消去法の中で日本文教出版がよいのではないかということではありましたが、光村図書出版の教科書について、今一度ご意見をお願いします。

委員

編集担当者とその中心にいるのが美術館関係者、美術館の館長をしている方、あるいは美術館の館長をされた方たちが中心で、いろいろな先生がつくっています。ですので、細かい現代の美術の作家を多く選んでいて、それはその人たちが取り上げて展覧会をしてあげた人たちが多く出ているという点では、ほかの教科書とは違います。

しかし、それは「教科書に取り上げてやったぞ」というのを作家に見せるために取り上げているのではないかというふうに思えなくない部分も結構あります。この方たちは大体近代美術を中心にこれまで展覧会をしたり研究したりして発表してきた人で、結構有名な人たちです。それよりも新しいものに対する、今の美術というのは単なる絵や彫刻だけではなく、むしろデジタルや漫画、アニメなどそういうふうな世界が広がって、子どもたちはそっちのほうのはるかに影響を受けているわけです。そういうものに対する眼差しがほかのものに比べると少し弱く、そういう点では、少し偏り過ぎていると思います。

あともう一つは、ほかの教科書のほうが子どもたちの作品を注目して、それを多く載せていて、それを見たほうが教科書を見る子どもたちは、「ああ、こういうことができるんだ」という形での刺激を受ける上でもいいと思います。その点でも少し劣りますので、あまりに専門家的過ぎることと、そういう取り上げているものが少し偏っていると思います。

そして、生徒の作品に対する配慮がほかのものに比較すると少し薄いという点で、私は一番最後にしました。

教育長

光村図書は、今のアートがどうなっているのかの薄さというところですよ。

委員

もっと広いメディアに注目しないといけませんので、そこは少し不満というか、そうでないと子どもたちは恐らく興味を持たないと思います。

教育長	光村図書は今の新しいメディアのことが十分に取り上げられていないということでしょうか。
委員	はい。やはりこういうのも編者がどういう人たちが中心になって行っているかということを調べて、知らないとなかなか見えてこない問題だと思います。
教育長	よろしいでしょうか。 それでは、技術に移らせていただきます。技術は今、東京書籍です。そして、変わりなく東京書籍ということで、湖南省では開隆堂出版もよいですが、東京書籍も変わらず中学生が行うべきことがまず書かれている、多様性にも詳しいといったことが意見として出ておりました。 これについては一致しますので、よろしいでしょうか。 家庭科につきましては、今、東京書籍ですが、湖南省も東京書籍がよいのではないかという意見を持っておりました。 ところが、これについては開隆堂出版がよいのではないかということで、ここも学校教育課長、補足をお願いします。
学校教育課長	甲乙つけがたいという中で、開隆堂出版については、生徒が主体的に課題解決を進められるような実践やイメージがわかりやすくまとめられていて、工夫が見られるということが上がっていたことと、東京書籍については参考例、実践例、グラフなどの資料が大変豊富に記載されているという点がよいのですが、身につけたいこと、それから課題を生活に結びつけるような発問がやや少ないという点で、開隆堂出版のほうがよいのではないかということでした。
教育長	調査としては、特に決め手は何でしたか。
学校教育課長	主体的に課題解決と、この辺りだったかなと思います。
教育長	ですので、見やすさやレイアウトの仕方といったところに、特に湖南省では意見が出ていましたが、それを上回る子どもたちの主体的な学びというところで、家庭は開隆堂出版ということでした。 委員、どうですか。
委員	主体的な学び、いいのではないのでしょうか。

学校教育課長	少し補足しますと、内容が日常生活に結びつけやすいということもありますし、「考えてみよう」というコラム等で、ペアワークで答え合うというような場面設定が教科書の中にたびたび出てくるという点も評価すべき点として報告がありました。
教育長	教科書を見て、一見して学び方というところのヒントもあるということで、開隆堂出版ということでありました。よろしいでしょうか。
委員	技術と家庭は同じ出版社のほうがよい、違うところのほうがよいというのは、あるのでしょうか。
教育長	これも社会科と同じですが、やはり技術は技術で協議する、調査する、家庭は家庭でということですので、そこは一致した出版社がよいのではないかという土俵には立っていないということです。
委員	主体的な学びができるというのが1点、開隆堂出版のほうがいいということなのですね。
教育長	はい。 次は、保健体育です。今はG a k k e nで、湖南市としてはG a k k e nがよいのではないかと考えておりましたが、大修館のほうがよいのではないかということです。湖南市は文章が簡潔、特に胎児の写真を見てもすぐわかりやすく、自立一つにしても揺れ動く気持ちといったことも詳しく書いてあり、自分らしさというところに触れているのがG a k k e nということで、G a k k e nというふうに考えておりましたが、これも学校教育課長、補足をお願いします。
学校教育課長	協議会の中でもG a k k e nか大修館かという議論はしっかりしていただいたかなというふうに思っております。教科書採択のための観点のページを見ていただけたらと思いますが、滋賀県が示した観点のための調査研究事項に照らし合わせて見た時に、運動やスポーツとの多様な関わり方やする・みる・支える・知るということについて、体育や健康の状況に応じて体力を高める必要について、自分の健康、安全に関する取組、自己の健康安全の保持、増進、回復のために、主体的に、または協働的に活動するよさに気づくといった事例、それから問いが各項目についてしっかりと取り上げられている、そういった箇所が一番多かったのが大修館だったということで、G a k k e nとの僅かな差はそこかなということでありました。

教育長	委員、この辺りについてはどうですかね。僅かな差だということは聞いております。
委員	保健体育で心身の健康というところでいくと、G a k k e nのほうが細やかであるとは思ったのですが、さっきおっしゃったとおり、運動の楽しさといったものに関しては、大修館がよかったのでしたら考え方の違いです。その方がいいかなと思いました。
教育長	次に、外国語です。今は東京書籍、湖南省でも東京書籍、協議会でも引き続き東京書籍でということでありました。このことについては、多様性や人権について日常生活とつながる内容があり、よくできているというような意見が出ておりました。 道徳につきましては、今は日本文教出版で、湖南省では東京書籍、それからG a k k e nもよいのではないかというご意見でしたが、結果としては日本文教出版になりました。これについては私も日本文教出版がどうかと思ったのはノートです。道徳ノートについて、あまりにも書いてなさ過ぎるというところで、先生の力量に左右されるような指導内容になってしまうかなと思いました。 ですが逆に言いますと、先生の価値観で誘導することが少ないといえますか、本当に議論する道徳になりやすい教科書だなということで、私の中では納得しております。 委員、どうでしょうか。
委員	ほかの教科で導入問題が難しいために先生が授業をしづらいと言っておられましたが、黒板に導入問題を書けばいいのではないかと私は思っています。算数や公民などは単元が多いために帝国書院に変えたとおっしゃっていたので、教科書どおりに授業がしやすいというのが大切かなと思ったのです。 しかし、日本文教出版はノートが結構真っ白なのですが、それが採択されたので道徳はそういう考えなのですねと思って、少し残念でした。
教育長	学校教育課長に先に聞いておいたらよかったですね。道徳で補足があったらお願いします。
学校教育課長	ノートについて、先ほど教育長からの説明があったとおりでありますが、内容、特にいじめ問題について直接的なものだけではなくて、間接的なものも含めて複数の教材で unit を構成していて、多彩な教材が学年ごとに

二、三用意されています。それが1つだけという会社があった中で多いということ、そして、そういったことが学級の成熟度、学級の状態に合わせて深めていけることができるような工夫がされていること、また教材、題材の中にいじめ問題に取り組む滋賀県草津市内の中学校の事例が載っていたり、それ以外に地域教材として湖南市の近江学園の糸賀一雄さんについての記事も、この日本文教出版は掲載されているということでございました。

教育長

よろしいでしょうか。

それでは、全体を通じて何かこのことはどうだったのかなど、もう少しご意見ございましたらお願いします。

委員

保健体育の中の性教育の部分のページ数がいつもすごく少ないですね。それについて、調査委員会のほうからそういう指摘というのはなかったのでしょうか。

教育長

性教育についての触れ方はどうでしたか。

学校教育課長

もちろん、各社性教育、性に関しての内容についての比較をしていただいております。お手元の資料の各社の特徴のところに書いてあります。

教育長

資料 117 ページに教科書の特色ということで、各教科書、載っております。

学校教育課長

協議会の中では、この会社が少ない、多いといったところは、具体的なページ数での比較はなく、内容についての記述にとどまっております。

教育長

118 ページに大修館書店の最後の行、教科書の特色というところで、ここに記述はありまして、ほかのところと比べましても性の多様性についての話、性に関しては充実しているといった記述はあります。

特に湖南市ではG a k k e nが性教育については充実しているのではないかということが出ておりましたので、そのところについては、若干意見は差というのか、異なるかなと思っております。

ほかにいかがでしょうか。

委員

湖南市の話合いの中で決めたのと調査委員会が「これがいい」というので推進して決まったものを見ると、5つほど湖南市とずれていますね。

教育長	6つずれているかなと私は思っています。
委員	どっちがずれているのかなと思いながら聞いていました。 この調査委員会の批評というか、コメントを見ていると、言っていることが抽象的ですよね。 例えば、国語は、どのテーマが、どういうものを取り入れていて、これがどれだけの意味があるかというのをもう少し細かいコメントをしないで、非常に一般的です。これは書写でも特に出てきていて、書写の学び方で筆の入れ方、穂先の向き、力の入れ方がわかりやすい。
教育長	9ページですね。
委員	そして、特に筆遣いに関する動画が充実していて、学習者が直接筆の運び方が見えるようになっていて、記載がありますが、これは書の形式的な面だけ注目しているわけです。つまり、上手に書くためには、まずどこに力を入れてどうしたらいいか、何を書くかということに対して全然関心がありません。ですが、書く時には、前にも言ったと思いますが、内容も非常に重要だと思います。
教育長	手本のこともありますし、書き手への配慮ということですね。
委員	はい。その点が、これは書写の教科書全体に言えることなのですが、「上手に書きましょう、きれいな字を書きましょう」ばかり言っていて、今、それを自分が書いている、あるいは練習している、つまり自分が見ながら書いて手本にしている、その手本というのはどれだけの歴史的な意味があるのかというようなことに対する知識が全然欠けています。その点は、調査委員、やはり考える必要があるのではないかと考えています。歴史・公民に関する説明も形式的で、委員がおっしゃったような問題点、つまり戦争をどう扱っているかということが非常に重要な問題になりますが、その違いとかというのに対してあまり評価がされていないので避けられている感じがします。そのところは少し調査の在り方に関して今後考えていくというか、提案、議論していく必要があると思います。
教育長	例えば、今の書写についての考え方も学習指導要領で目標というのが定まっていますので、そのところについて、すぐに「書写がこうだ」ということをお答えできないのですが、やはりその目標を達成するのにどういう教科書が必要なのかというところを今一度、もちろんそこは考えての調査だとは思いますが、そういったところも十分吟味する必要があるなと

ということかなと思います。

委員

そうですね。国語とも非常に深く関係していますのでね。

教育長

はい。書写の目標が今、委員がおっしゃったのとは異なるかもしれませんが、やはり書く、書いて写すことの教科です。

委員

それは教員自身がその辺を考えていて、その時に同時にそういうところにも目を向けさせるような教育をしてほしいなと思います。単なる教科書だけではないと思うので。

もう一つ聞きたいのは、私が前回の7月に「道徳ってもう要らないのと違うか」と意見しましたが、協議会でそのような意見はなかったですか。

教育長

それはないですね。

委員

公民、歴史というところに道徳的にやらないといけないことが多くありますので、そちらのほうに力を傾けたほうがいいように思います。

委員

国語でもカバーできますよね。

教育長

もともと道徳というのは学校教育の全体の中でということだったので、教科としてできました。

委員

できてしまったこと自体に僕は非常に疑問を持っています。

教育長

委員のご意見としてお聞きしておきます。

ほかによろしいでしょうか。

それでは、資料2ページから13ページに書いてあります教科書用図書選定一覧について、様々な意見を私たちも持っておりますが、湖南省としても採択するということによろしいでしょうか。

それでは、議題第31号、令和7年度使用教科用図書の採択につき議決を求めることについてお諮りします。

令和6年7月31日水曜日および8月1日木曜日に開催された、教科用図書第二採択地区協議会における選定結果に基づき、令和7年度の湖南省立各小中学校使用教科用図書を採択することに異議ございませんか。

各委員

－ 全員異議なし －

教育長

ありがとうございます。

では、異議なしと認め、議題第 31 号、令和 7 年度使用教科用図書の採択について承認されました。

今、いただきました意見も、また幹事会もございますので、その辺りへ伝えていくということで、こちらの湖南市臨時教育委員会につきましては閉会させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。